

我が社の安全管理活動について

札幌ベニヤ株式会社 金子 勝紀



2024年11月、木材産業における作業安全の強化・向上を目的とする研修会が釧路市内で開催されました。研修会では、全木連が作成した「安全診断マニュアル」の説明とともに、札幌ベニヤ株式会社（以下、札幌ベニヤ）で安全管理者を務められている金子氏から作業安全に関する取り組み事例が紹介されました。その内容は、業態、製造工程・装置などが異なっても十分に参考になると思われることから、ここに紹介します。なお、本稿の作成に際しては金子氏のご理解、ご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

（文責：普及協会・菊地）

■はじめにー札幌ベニヤの設立・沿革

札幌ベニヤは、経理専門の側近として松下幸之助氏に仕えていた故山本富夫氏が創業しました。山本氏は、太平洋戦争のさなか、軍需用の航空機に使用する合板の供給を目的とする工場設立の命を松下氏から受け、北海道に来ました。道内の合板工場をまとめ「松下航空木材」という会社を立ち上げましたが、終戦による財閥解体の中で会社は解体されました。松下氏からは戻るように言われましたが、清里町札弦の地が気に入った山本氏は北海道に残り、昭和23年、単板を製造する札幌ベニヤを設立します。続いて、札幌ベニヤは単板工場から合板工場へと移行し、釧路港からアメリカ向けの輸出を行うようになりました。その後、為替が変動相場制になり合板の海外輸出が難しくなってきたこと、および国内の需要が高まってきたことから、昭和40年に国内向け合板の製造を目的とした白糠工場、昭和45年に突板合板、フロア合板などの複合合板を製造する恋問工場を稼働させました。

現在、札幌の木材事業部とランバー工場、及び白糠、恋問の各事業所が緊密に連携して多種類の製品を生産しています。

■安全のための取り組み

当社の安全のための取り組みを表1に示します。これは、教科書に書いてある、おそらく他の事業体で実

施している、いわば「当たり前のこと」です。その「当たり前のこと」ができないときに事故が起きます。ですから、「当たり前のこと」が常にできる環境を整えることに、安全管理者として心を砕いています。

表1 安全のための取り組み

実施項目	概要
1.安全衛生委員会	メンバー7名で月1回、30分間を目安に開催
2.安全衛生報告会	朝会の後に、月1回開催
3. 重点作業	
a) 作業標準書の作成	初見の作業者が理解できるように図、写真などを活用
b) 安全パトロール	月1回、2名態勢で実施
c) 勤務態勢の見える化	日々の作業員の配置を掲示

■安全衛生委員会、安全衛生報告会

安全衛生委員会は、従来、全ての職長が集まる大人数の会議でした。しかし、参加者が多すぎて、安全管理者、衛生管理者から一方的に情報を伝えるだけの場になりがちでした。そこで、数年前に工場作業職代表2名、事務職代表1名、安全管理者等4名、計7名の態勢にあらためました。また、会議時間もあえて短くしています。このようなスリム化により、安全衛生委員会では具体的案件を、スムーズに打ち合わせることができるようになっていきます。

会議内容はGoogleカレンダーに掲載して、職員が共有できるようにしています。さらに、月1回の安全衛生報告会で全職長に安全衛生委員会の検討内容を報告し、職長から各職場に伝達しています。

■作業標準書の作成

作業標準書を作ることにしたのは、職場に「体で覚えろ」的なところが残っていると感じ、それが事故につながりかねないと考えたからです。

作業標準書は安全管理者がつくと現場作業を十分に把握できていない中で作りかねませんので、持ち場作業者が作成することを徹底しています。また、他部

署から入ってきた初見の作業員でも理解できる内容とすることにもこだわりました。

最初に提出される作業標準書は、多くの場合、スイッチを入れる、電源を入れる、のように基本的な動作をかいつまんで書いた文書です（図1左）。しかし、他部署の作業員は、そもそも電源スイッチがどこにあるのかわかりませんから、このような作業標準書では実際の作業手順がわかりません。そこで、これはどこにあるの、といった質問とともに、提出された作業書を現場に戻します。すると次には、写真などを活用した目で見てわかる作業標準書になります（図1右）。同時に、作業手順を考える中でその作業に潜む危険面に気づいていくのでそれも書く、といったことを繰り返していきます。

作業標準書を作成する中で、安全面での注意点、ひそんでいる危険性などが見えてきます。危険な点を改善すると作業の効率があがり、歩留まりも向上します。作業標準書の作成、さらに広く言えば安全衛生の取り組みは会社の業績を上げる取り組みでもあるのです。

職場の機械の種類、それを使う作業の種類は想像以上に多様です。また、日々の作業の中で気づいたことがあれば追加・変更もするので、作業標準書の改定作業に終わりはないと感じています。

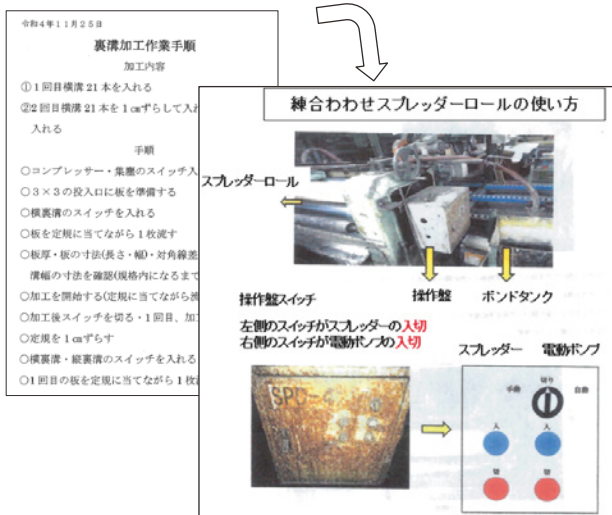


図1 作業標準書の作成作業

右：当初の説明文、左：改良後の説明文

■安全パトロール

毎月、職長以上の者2名が、職場内の安全を点検しています。この2名は毎回選出し、さまざまな視点で点

検がなされるような仕組みとしています。同時に点検項目のリストを作成し、点検漏れが起きないようにしています。パトロール時の心構えとして示していることは表2のとおりです。

表2 パトロール時の心構え

- ・どんなことでも見落とさないという心構えで行う
- ・悪い点に注目するだけでなく、良いところは高く評価する
- ・あら探的な態度や方法は避ける
- ・すぐにできることは、その場で改善させる
(対話を通じ、どんな危険性があるかを認識してもらう)
- ・不安全行動に注視する

■勤務態勢の見える化

恋問工場は扱う製品の種類がとても多く、それら全てを在庫するのは現実的ではなく、注文を受けた製品をその都度生産しています。そうすると、工場の作業員は、今日はAという機械で、明日はBという機械で製品をつくることになり、日々、工場の中を作業員が頻りに移動しています。そこで見える化が重要になります。図2は当日の各作業員の職場を見えるように掲示したものです。ほかにも、1週間の仕事内容や生産量も掲示しています。このような方法で勤務態勢の見える化を図っています。

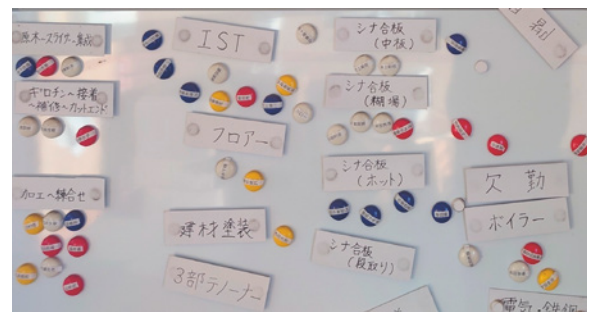


図2 作業員の見える化

作業場所・内容のラベルに作業員（丸磁石）を配置

■おわりに

具体的に見える問題点は、以上のような取り組みなどを通じて改善しています。一方、うっかりミス、ケアレスミスはその要因がさまざま、その防止は一朝一夕には進みません。試行錯誤はありつつも対策を進めているところです。